

「情報機器」を
活かす

+

「不要品」を
活かす

電気設備業

セキュリティカーゴ貸出で定期回収

事例

7

不要となった PC をセキュリティカーゴに 保管して施錠。集積完了後にピックアップ



保管室にカーゴを設置して外からしっかり施錠
PCが集まり次第回収し、回収時に新たなカーゴを設置

解決

拠点への回収は毎回少ない数で拠点毎に手配していたため、費用がかさんでおり、拠点担当者と本社情報システム室の間で不要となる対象 PC の管理に行き違いも発生していた。

当社のセキュリティカーゴ貸出サービスは、施錠が出来るセキュリティカーゴをお客様の希望する場所に設置し、お客様の拠点から届く PC をカーゴ内に保管いただいて、集積完了後に電話 1 本で回収訪問するサービスです。

外から施錠したセキュリティカーゴは、お客様ご自身で暗証番号の設定も可能で、当社テクニカルセンター到着後に開錠ナンバーをお伝えいただき始めて開錠となる。

本事例では回収以降にまた PC を集積できるよう回収時に新たなセキュリティカーゴを設置し、集積後の回収と設置を繰り返す行う定期サービス便となっている。

また、回収時にお客様立ち合いの下、現場でデータ消去も行える為、本事例の企業では、回収現場で HDD を抜き出して物理破壊を行っている。通電しない PC は磁気消去装置によってデータを完全に破壊し、データ消去証明書を発行。

本サービスにより拠点担当者と情報システム室の手間を削減している。

検討課題

関東地方を中心に電気設備工事、電力工事等を行っている総合電気設備会社。

徐々に PC を入れ替えるこの企業では、少ない数で PC を回収するのに費用と手間がかかっていた。また入替時に不要となった情報機器の管理にも手間がかかっていた。

セキュリティカーゴを設置して 定期回収を実現



しっかり施錠
暗証番号付き



お客様の PC が
集まり次第回収訪問



定期回収便として
PC 以外も対応可能

POINT

1. 定期回収便
2. 集積後に電話 1 本
3. セキュリティカーゴ
4. PC 以外も定期回収